

肝炎相談支援センター

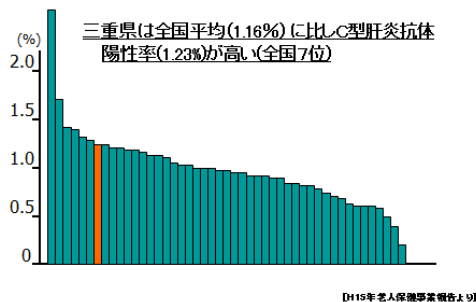
■ スタッフ

センター長		竹井謙之
副センター長		長谷川浩司
医師数	常 勤	2 名
	併 任	3 名
	非常勤	4 名

■ 部門の特色

本邦においてはB型およびC型を合わせた肝炎ウイルス慢性感染者は実に 300 万人とも 400 万人とも言われており、その感染率は先進国においては飛び抜けて多い状況にあります。特に三重県においてはC型肝炎陽性率が全国平均より高いことが指摘されています(図1)。

図1.都道府県別C型肝炎抗体陽性率



国が本格的な肝炎対策事業に乗り出したのが平成20年4月より始まったB型およびC型慢性肝炎患者におけるインターフェロン治療の医療費助成制度であり、もう1つが各都道府県における肝疾患診療連携拠点病院の認定であります。三重県においては平成20年12月12日付けで三重大学医学部附属病院が拠点病院の指定を受け、それに伴い平成21年1月15日病院内に「肝炎相談支援センター」が開設されました。

「三重県内の肝炎患者が検査や診療を受ける上でのサポーター役」と考えています。専用の電話回線をもうけ、主に肝炎患者やそのご家族からの電話相談を行っています。

また三重県内において一定レベル以上の肝疾患診療を行っている「肝疾患専門医療機関」に対して各医療機関との協議の場として肝疾患専門医療機関連絡協議会を毎年開催し情報交換等を行っています。

さらに医療従事者を対象とした研修会や地域住民を対象とした講演会等の開催を行っています。

1. 当センターの主な目的

肝炎診療の均てん化をすすめます。

当センターの役割は適切な検査により肝炎ウイルスに感染している方を1人でも多く見つけ適切な医療を受けていただくための手助けを行う機関です。そのためには、[肝炎患者-各地域の診療医の先生方-肝疾患専門医療機関]の間を繋ぐ橋渡しの存在としても機能すべきと考えています(図2)。

医療従事者および一般のかたに広く肝炎の知識を啓蒙して肝炎診療の均てん化を図ります。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

肝疾患に関する相談支援に関する業務

専用の電話回線をもうけ、主に肝炎患者やそのご家族からの電話相談を平日の10時~17時までに行っています。肝炎や肝臓治療における相談が多くを占めており、できるだけ現在の肝疾患の診療ガイドラインに則ってアドバイスをしています。

肝疾患に関する医療情報の収集と提供

当センターからの情報発信は平成21年3月28日と29日の2日間にわたって竹井センター長と新聞記者によるインタビュー形式の「C型肝炎に関する新聞記事」を中日新聞に掲載致したことを皮切りに、当センターのホームページを立ち上げ(<http://www.medic.mie-u.ac.jp/kane-nshien/>)、そこに患者さん向けの肝炎に関する簡単な説明のページも設けました。三重大学医学部附属病院のトップページにバナーが付いておりそこからのアクセスも可能となっています。

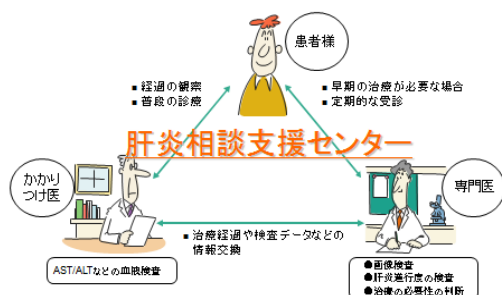
医療機関等との協議の場の設定

三重県内において一定レベル以上の肝疾患診療を行っている医療機関に対し「肝疾患専門医療機関」の認定を三重県が行い、同施設を中心とした各医療機関との協議の場を設定し情報交換等を行っています。

医療従事者を対象とした研修会や地域住民を対象とした講演会等の開催

三重大学構内において大学の staff や医療行政担当者を対象とした肝炎対策研修会、肝炎患

図 2. C 型慢性肝炎治療における病診連携



者様を対象とする肝臓病教室を開催しています。また年 1 回日本肝臓学会や三重県、三重県医師会との共催で、広く県民の皆さんに肝炎を中心とした肝疾患に対する理解を深めて頂こうと「肝がん撲滅運動記念講演会」として市民公開講座を開催しています。

2. 診療実績

2016 年 1 月から 12 月における相談件数

病気自体に関して	5 件
病気の治療に関して	29 件
肝炎ウイルス検査について	2 件
日常生活上の留意点について	1 件
医療機関に関して	2 件
肝炎訴訟について	1 件
その他	17 件
合計	58 件

開催市民公開講座：

第 8 回市民公開講座を 2016 年 7 月 9 日（土）三重大学において「これからの肝炎 肝がん治療」をメインテーマで以下の演題で開催しました。

一般演題

1. お酒と脂肪肝 三重大学医学部消化器肝臓内科 講師 長谷川浩司
2. 肝がん撲滅のために 三重大学医学部消化器肝臓内科 杉本 和史

特別講演

「ウイルス肝炎がなくなる？時代へ」
国際医療福祉大学 三田病院 教授
海老沼 浩利先生

肝炎検査およびその後のフォローを円滑にすべく、メディカルスタッフ、市町村検診部門担当者向けに 肝炎コーディネーターの育成を目標にし、研修会を行っています。

研修会

2016 年 11 月 10 日（木）

第 1 回肝疾患に関する医師以外の医療従事者研修会

肝臓病教室の運営上の問題点

パネルディスカッション

三重大学病院 管理栄養士 原 なぎさ

伊勢赤十字病院 薬剤士 藤井 亮祐

三重中央医療センター 看護師 森下奈津実

基調講演

最新の肝臓病のトピックス

三重大学医学部附属病院 中央検査部

副部長・講師 杉本 和史

特別講演

名古屋市立大学大学院医学研究科 病態医科学

肝疾患センター・中央臨床検査部

教授 田中 靖人先生

『ウイルス性肝炎の最新情報

～創薬研究から臨床応用へ』

2016 平成 28 年 12 月 10 日（土）

第 2 回肝疾患に関する医師以外の医療従事者研修会

パネルディスカッション

肝臓病の栄養管理における問題点

三重大学病院 管理栄養士 原 なぎさ

三重大学病院 薬剤師 須藤宏文

三重中央医療センター 看護師 柳浦彩菜

基調講演 最新の肝臓病のトピックス

三重大学医学部附属病院 消化器内科学

准教授 岩佐 元雄

特別講演

『肝硬変・肝がん診療 Update 2016』

大阪市立大学医学研究科

肝胆膵病態内科

教授 河田 則文先生

さらに今年度は厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動事業の「知って、肝炎プロジェクト」

（所在地：東京都港区六本木 1-6-1 特別参与：杉 良太郎）のスペシャルサポーターの山川豊氏が 2016 年 11 月 17 日（木）に三重県を表敬訪問されました（写真）。当センターは三重県と共同でこの表敬訪問の招致に関わりました

当日は、山川氏の挨拶からはじまり、杉特別参与のメッセージを代読し、メッセージボードと肝炎クッションが贈呈されました。

まず、「私の出身である三重県の方に、肝炎の怖さ・肝炎ウイルス検査の重要性、そして素晴らしい薬が開発され肝炎は薬で治るようになったことを知っていただきたい。」と、山川氏から表敬訪問の目的がお話されました。その後の懇談では、当肝炎相談支援センターが中心となって実施している三重県内の肝炎対策についての話を、山川氏は興味深い表情で聞き入っていらっしゃいました。また、肝炎プロジェクトミーティングや、テーマソング「笑顔の明日」についての話題で盛り上がりました。三重県鈴木知事から、「行政だけでは伝えにくいことも、山川さんに伝えていただくことで、多くの方に注目していただけるのではないかと期待しております。肝炎ウイルス検査を無料で実施していることを県民に知ってもらえるよう、しっかり広報していきたいと思います。」と肝炎対策について取り組んでいくことを誓う力強いコメントをいただきました。



その他

2016年3月6日

読売新聞 病院の実力 C型肝炎の特集で長谷川副センター長がインタビューを受けた。

2016年12月19日

長谷川副センター長がFM三重 EVENING COASTER においてC型肝炎について 病気や新しい治療についてをテーマに出演しました。

■ 今後の展望

2016年5月31日 WHOは2030年までに肝炎ウイルスを根絶させることを目標に挙げ、各国に

協力を求める採択をしました。

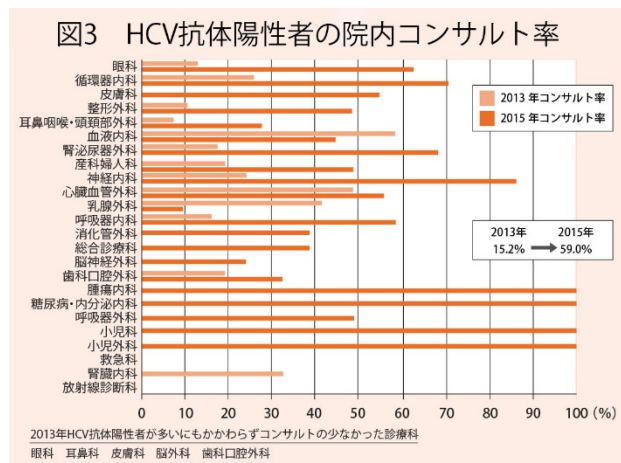
この背景には B型肝炎に対するユニバーサルワクチネーションと核酸アナログ製剤による肝炎進展予防と、C型肝炎に対するインターフェロンフリー直接作用抗ウイルス薬 (DAA) の登場があります。特にインターフェロンフリーDAAのウイルス排除率は95%にのぼりほぼC型慢性肝炎は治る時代となりました。

このような状況ですが、まだ国内には肝炎にかかっているが肝炎に対する検査、治療を受けていない方が大勢みえます。厚生労働省はこのような状況に対して受験、受療率の改善を目標に様々な施策を展開しています。

当センターは厚労省の施策を推進すべく日々活動を行っています。

このような取り組みのなか 2014年に厚労省からの通達周知事項として、手術前検査での肝炎検査の通知の徹底とその後のフォローに対する勧奨があり、当院における2013年の肝炎ウイルス検査の実態評価を行いました。その結果一部の部門での未通知の現状があり、その後のフォロー、コンサルト率向上を目指し、前述の院内・院外での広報活動を展開してきました。

この結果 2015年のコンサルト率の上昇を確認しました。(図3)



さらに患者さまへの検査結果の通知の徹底と未受診者へのコンサルト率を上昇させるべく、2016年12月 mint2 導入プロジェクトに併せて肝炎アラートシステムを導入しました。

血液製剤におけるスクリーニング法の確立や母児感染対策事業により新規のウイルス感染者は近年減少傾向にあります。感染患者の高齢

化に伴う肝発癌率の増加が危惧されています。慢性肝炎の多くは自覚症状に乏しく感染者自身も知らないうちに「肝硬変」や「肝臓癌」に進行することも多く、血液検査による感染者の同定と感染者に対する適切な医療の提供の必要性が指摘されています。一方、この10年間の肝炎に対する治療法の進歩には目を見張るものがあります。このような状況下で治療適応となる症例の掘り起こしが急務となっています。

肝炎・肝臓癌の撲滅にむけて、肝疾患全般にわたる医療相談、啓蒙活動および情報発信を行っています。

▶ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)